



旭中学校だより

＜学校の教育目標＞

- 学び続ける生徒
- 思いやりのある生徒
- やりぬく生徒
- たくましい生徒

「心を一つに創り上げた旭中祭」

校長 久米 達夫

今年は、「秋が短い」という声をあちこちで耳にしました。確かに9月ぐらまでは「暑い暑い」と言っていたのに、今(10月下旬)は「寒い寒い」と言って、ストーブが活躍する時期になりました。寒さと共に、インフルエンザ等の感染症の心配も出て参りました。学校では、手洗い励行や加湿器の設置、定期的な換気等で感染症予防に努めてまいります。

さて、10月3日(金)に開催した旭中祭では、生徒一人一人が自分の力を発揮し、見事にやり遂げてくれました。

ステージ発表のパフォーマンス部門では、どのグループでも「失敗を恐れず挑戦する姿勢」が印象的でした。劇に取り組んだグループは、難しい内容にもかかわらず、それぞれが役になりきり、真剣に演じる姿に感動しました。「全校制作」のモザイクアートや「テーマデザイン」のグループ制作も、短い準備期間の中で計画的に取り組み、生徒会テーマである「ハクナ・マタタ」を見事に表現してくれました。また、どの作品にも、生徒たちの工夫と協力の跡がしっかりと感じられました。

午後の合唱コンクールでは、最初に全校生徒で歌った「校歌」が今年一番のまとまりを見せ、まさに全校生徒の気持ちが一つになった瞬間でした。学級ごとの合唱も非常にレベルが高く、特に1年生の清らかなハーモニーがその後の流れを作り、続く学年の合唱も力強く、全学級が金賞という素晴らしい結果になりました。旭中祭全体を通して、会場の雰囲気はとても温かく、発表を見守る生徒同士の拍手や「がんばれ!」という励ましの声がたくさん聞かれました。生徒同士が互いを思いやり、支え合う姿があふれる素晴らしい一日になりました。

また、保護者や地域の皆様から、生徒への励ましのメッセージを付箋に書いていただきました。その付箋は、旭中祭後、生徒玄関に掲示させてもらいました。生徒たちは、他者からの評価によって、改めて自分の存在価値を見出し、自己肯定感を高めていきます。今回保護者・地域の皆様からの言葉の一つ一つが、これからの生徒たちの自信とやる気につながるものと信じております。

今回の旭中祭を通して、生徒たちは「仲間と力を合わせること」「自分を信じてやり遂げること」の大切さを学びました。これからも生徒の成長を、学校・家庭・地域が共に手を携えて見守り、支えていきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

旭中祭後、1年生は小樽への見学旅行で、企業訪問や自主研修を行いました。また2年生は、職場体験として、余市町内の企業(30カ所以上!受け入れていただきました)で「働く」体験をして参りました。この場を借りて、お世話になりました各企業の皆様に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

この体験を通して、生徒たちは、余市町の良さを認識できたものと考えます。また各企業が、忙しい時間を割いて、温かく対応してくれたということをしっかりと覚えておき、自分の将来を思い描いてもらいたいと思います。

3年生は、部活動そして旭中祭という大きな行事を終え、いよいよ自分の進路に真っ直ぐ向き合う時期になりました。高校に入ることが目的ではありません。生徒自身が将来について考え、そのための進路選択となるよう、学校でも進路指導をして参ります。御家庭でも、お子様と進路や将来のことについて話し合う時間を作っていただけたらと思います。